

東京大学演習林鳥類目録

東京大学演習林鳥類研究会

Bird List of University Forests, The University of Tokyo

Bird research group of University Forests, The University of Tokyo

I. はじめに

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（以下、演習林）は、1894年の千葉演習林の設立以来、100年を超える歴史を持つ。北海道演習林、秩父演習林、愛知演習林、富士演習林、樹芸研究所、田無試験地の計7つの地方演習林からなり、亜寒帯から暖温帯、海岸から亜高山帯までの森林帯を有する教育、研究活動のための森林である。

利用者は、多岐にわたり、本学を始めとした学生、大学院生や研究者のほか、近年では各演習林が主催する公開講座等を通し、一般市民などにも広く利用されている。今後さらに演習林が、教育研究のためのフィールドとして有効に活用されていくためには、単に場所を提供するだけでなく、演習林に属する動・植物の目録などの基礎データをより高い精度で収集し、整え、提供していく事が重要である。

本報告は、2004年4月から2008年7月までの足かけ5年間、各地方演習林で確認された鳥類についての記録をまとめたものである。今後も調査を継続し、5年を目処に更新をしていく予定であり、森林構造などの変化にともなう鳥類相の変化を捉えることによって、モニタリングとしての役割も果していく予定である。

本報告をとりまとめた東京大学演習林鳥類研究会は、東京大学演習林基盤データ整備委員会、生物部門、鳥類担当の活動における部会の一つとして位置づけられており、各地方演習林の鳥類に関連した教育、研究支援のための基礎資料の整備と研究、および、公開講座等を通じた社会貢献を目的としている。各演習林の担当者は、次の技術職員である。千葉演習林：阿達康真，才木道雄，北海道演習林：松井理生，木村徳志，小川瞳，及川希，犬飼慎也，福岡哲，五十嵐勇治，村川功雄，秩父演習林：齋藤俊浩，千嶋武，富士演習林：算用子麻未，愛知演習林：荒木田善隆，高德佳絵，樹芸研究所：村瀬一隆。

本報告をまとめるに当たっては、各演習林の多くの職員に有益な情報を提供頂いた。この場を

お借りして深くお礼申し上げます。

II. 調査地および方法

調査地は、各地方演習林全域である。演習林の管理業務、試験地の調査業務、教育研究の補助業務等、野外での作業時に不定期に観察し、種の記録に努めた。ただ、広大な面積を有する各演習林を限られた職員で、通年、詳細に調査を行うことは困難であり、愛知演習林(35°12' N, 137°10' E白坂)、富士演習林(35°24' N, 138°52' E)、田無試験地(35°44' N, 139°32' E)以外の演習林における主な調査地域は、以下のとおりである。千葉演習林(35°9' N, 140°9' E清澄): 天津事務所周辺、本沢林道周辺、足谷・一杯水間の林道周辺、一杯水林道周辺、仙石林道周辺(標高280m)、郷台林道周辺(標高220m)、猪ノ川林道周辺、荒檜・大仙場間林道周辺、濁川堰堤周辺(標高190m)、北海道演習林(43°13' N, 142°23' E山部): 樹木園(標高230m)、37林班(小黒瀬沢、標高200-280m)、108林班(神社山、標高300-360m)、8・9林班(標高860-960m)、12林班(標高680-770m)、1林班(大麓山登山道、標高1230-1460m)、秩父演習林(35°56' N, 138°49' E小赤沢): 東谷林道周辺、入川林道周辺、矢竹沢第2作業道周辺(標高1,100m)、28林班大面積長期生態系プロット内(標高1,000-1,350m)、突出峠(標高1,650m)、樹芸研究所(34°41' N, 138°51' E青野): 岩樟園林道周辺(標高100-250m)、山下林道周辺(標高130-250m)、クスノキ林歩道周辺(標高200-280m)、加納事務所構内。調査期間は、2004年4月から2008年7月までで、繁殖シーズン5ヶ年分(冬期間は4シーズン)である。通年観察の他、各演習林とも繁殖シーズンには、ラインセンサス、ポイントセンサス等の調査地を設定し、調査を行った(富士演習林は、繁殖シーズンのみの調査)。なお、各地方演習林の位置、地況、植生などの詳細については、演習林のホームページ(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)を参照されたい。

III. 季節性、繁殖状況および分類

季節性および繁殖状況を表-1に示す。季節性は観察期間によって次の5タイプに分類した。R: 留鳥、一年を通して観察される種、S: 夏鳥、主に夏の期間に観察される種、W: 冬鳥、主に冬期間に観察される種、P: 旅鳥、主に春と秋の渡りの時期に短期間観察できる種、A: 迷鳥、稀に観察された種。また、文献等による2004年4月以前のみの確認については、アルファベットを小文字で表記した。繁殖状況については、次の3タイプに分類した。1: 2004年4月以降に繁殖を確認した種、2: 文献等によって過去に繁殖を確認した種、3: 繁殖未確認。繁殖は、営巣(産卵、育雛)、幼鳥、成鳥の餌運び、古巣の確認により行い、囀りだけの確認は、繁殖未確認とした。

本報告における目、科、属、種名の配列、学名、英名、標準和名は、日本鳥類目録改訂第6版(20)によった。

IV. 各 論

今回記録された鳥類は、過去の記録も含め、19目47科106属166種であった。各地方演習林での記録数は、千葉演習林：10目29科53属70種、北海道演習林：13目37科74属110種、秩父演習林：14目33科64属88種、愛知演習林：14目35科62属90種、富士演習林：18目40科74属113種、樹芸研究所：11目29科52属70種、田無試験地：10目24科32属37種であった。2004年4月以降の確認種について、生息状況等を演習林毎に概説する。ただ、田無試験地については、観察が不十分であり知見を得るに至らなかったため、省略する。

千葉演習林

ウミツバメ科

ハイロウミツバメの死骸を2003年6月に拾得した。

サギ科

ミズゴイは、2008年4月郷台林道沿い小屋ノ沢付近で目撃し写真を撮影した。その他演習林周辺及び通過での確認をしている。コサギは、演習林周辺及び、通過のみを確認している。アオサギは、濁川堰や坂本ダムでよく見られる。

カモ科

オンドリは、濁川堰や坂本ダムでよく見られる。札郷作業所構内のフクロウ用巣箱で、2008年5月に産卵、6月に巣立ちを確認した。マガモ、カルガモ、キンクロハジロは、濁川堰で群れを確認した。キンクロハジロの目撃例は少ない。

タカ科

ミサゴは、2007年2月に坂本ダムでモミにとまっているところを確認した。ハチクマは、2008年6月に本沢で確認した。天津事務所の裏山でハイタカ属の鳴き声が聞こえたという報告を受けた。ツミと思われるが不明である。トビは、林内でも確認できるが、天津事務所上空でよく見られる。ノスリは、1月ごろから天津事務所上空や周辺地域のダム上空でよく見られる。サシバは、郷田倉のスギ人工林、舟ヶ沢で確認している。2008年4月札郷作業所上空で鳴きながら飛翔しているのを確認した。

ハヤブサ科

チョウゲンボウを2007年10月、天津事務所を確認した。

キジ科

ヤマドリは、演習林内ほぼ全域で見られるが、特に郷台林道で目撃されることが多い。

ハト科

キジバトは、演習林内ほぼ全域でよく見られる。アオバトは、早朝もしくは夕方に、橋ノ沢林道周辺、堂沢風致林、本沢林道周辺での確認のみである。

カッコウ科

ジュウイチは、2006年6月、小屋ノ沢土場で初めて鳴き声を確認することができた。2008年6月には、夜間に札郷付近を鳴きながら飛んでいた。カッコウは、演習林内で鳴き声を確認している。ツツドリは、四朗治や札郷で数例、確認できている。ホトトギスは、演習林全域で確認され、カッコウ科の中では観察例が多い。

フクロウ科

フクロウは、夜間、清澄から札郷までの県道で確認できる。清澄学生宿舎でも鳴き声を確認している。

カワセミ科

ヤマセミは、演習林周辺の小櫃川では良く確認されていたが、2005年9月、初めて川台つり橋（演習林内）でつがいを確認した。カワセミは、猪ノ川林道周辺や本沢林道周辺でよく見られ、一定の採食場所がある。2005年にスギ人工林内の法面に作られた巣穴と中のオスを確認した。

キツツキ科

コゲラが演習林全域で見られる。

ツバメ科

ツバメは、天津事務所周辺で確認できる。

セキレイ科

キセキレイは、猪ノ川林道周辺で姿が良く確認され重機の隙間などにも巣作りする。ハクセキレイ、セグロセキレイは、郷台作業所周辺のダムや耕地で多く見られる。

ヒヨドリ科

ヒヨドリは、演習林全域で見られる。若鳥の目撃例もなく、繁殖は確認されていない。

モズ科

モズは、林内の皆伐跡地などでも見られるが、天津事務所周辺での目撃例が多い。

レンジャク科

ヒレンジャクは、2007年4月に、清澄作業所周辺で小さい声で鳴き小群で採食していたのを確認した。

ミソサザイ科

ミソサザイは、猪ノ川林道周辺や大仙場林道周辺の沢筋の他、郷台林道、荒樫で囀りが聞かれ

た。

イワヒバリ科

カヤクグリは、2006年12月に毘沙門で確認し、撮影した。

ツグミ科

ルリビタキは、2006年3月、仁ノ沢林道周辺でオスを、2007年1月に札郷でメスを確認した。ジョウビタキは、11月上旬には確認され、林縁や林道でメスの目撃例が多い。イソヒヨドリは、林内での目撃例はほとんどないが、天津事務所構内ではよく見かけられる。トラツグミは、2007年1月に天津事務所脇の見本林で確認した。早朝や夕方に林内で囀りを確認できるが、機会は少ない。2007年2月1日に死体を拾得している。クロツグミは、本沢林道でよく確認される。2008年4月、平塚で囀りを確認している。アカハラは、林内で姿を見ることは少ないが、天津事務所周辺では、比較的確認しやすく、写真も撮影できた。シロハラは、林内で姿を見ることは少ないが、早朝は林縁で確認できる。2008年3月に天津の職員宿舎で写真を撮影した。ツグミは、清澄作業所構内や周辺駐車場など開けた場所で多く見られる。

ウグイス科

ヤブサメは、林内各所の沢沿いや下草の多い所で囀りを確認できる。小坪沢で2008年4月、囀りを確認した。ウグイスは、演習林ほぼ全域で見られ繁殖も確認できた。エゾムシクイは、2007年5月に舟ヶ沢42林班C₁小班で初めて確認し、囀りを録音した。センダイムシクイは、林内各所の沢沿いの樹冠で動きながら囀っている姿を確認できる。2008年4月、札郷作業所で囀りを確認した。

ヒタキ科

キビタキは、各所で比較的良好に見られ、特に今澄林道周辺で多く見られる。平塚34林班B₁小班で2008年4月、囀りを確認した。オオルリは、4月になると各所で囀りが確認でき、姿を見ることも多い。巣を確認することも多い。

カササギヒタキ科

サンコウチョウは、沢沿いで少数の確認記録があったが、2004年の詳細な調査では、林内13ヶ所で生息を確認し、その内5ヶ所で巣を確認している(22)。

エナガ科

エナガは、ほぼ全域でよく見られる。

シジュウカラ科

ヤマガラ、シジュウカラともに、全域でよく見られ、林内に設置した巣箱で繁殖を確認できた。2004年から2008年の期間、巣箱は両種によって、ほぼ100%利用されている。

メジロ科

メジロは、全域でよく見られ、古巣によって繁殖も確認している。

ホオジロ科

ホオジロは、疎林や林道沿いでよく見られる。卵、巢、古巢により繁殖を確認している。カシラダカは、仙石林道周辺や本沢林道周辺で少数の群れを見かけることがある。アオジは、林内各所の林縁部や林道で、少数の群れを確認できる。クロジは、薄暗いスギ、ヒノキ林内で見かけることができるが、開けた場所では確認できない。

アトリ科

アトリは、札幌作業所で少数見かけることがある。カワラヒワは、演習林全域で見られるが特に天津事務所周辺では囀り個体が多く見られる。繁殖は確認されていない。マヒワは、10-30羽ほどの群れで行動している。目撃記録は、清澄作業所周辺と札幌作業所周辺で年に1, 2回程度である。仙石林道周辺で2007年10月、写真を撮影した。ウソは、3~5羽ほどの群れで行動し各所林道沿いの草木の種子を採食している姿を見かけることがある。シメは、札幌作業所の苗畑など開けた場所で見かけることがある。

ハタオリドリ科

スズメは、林内では見られないが天津事務所周辺で確認できる。

ムクドリ科

ムクドリは、林内では見られないが事務所周辺では集団で見られる。

カラス科

カケスは、演習林内での目撃例は多い。オナガは、林内では見られないが天津事務所周辺で確認している。ハシボソガラス、ハシブトガラスともに演習林内でよく見られる。

外来種キジ科

コジュケイは、札幌作業所周辺で親子連れが見られるが、目撃例は少ない。

北海道演習林

サギ科

アオサギは、老節布川などの川沿いや樹木園で見かけることがある。

カモ科

コハクチョウは、渡りの時期に上空を通過する。空知川で見かけることがあるが、富良野地方での越冬は確認されていない。オンドリは、春先にオンコ沢や布礼別川、奥の沢で見かけるが、繁殖が確認されたことはない。マガモは、鳥沼（富良野市内）では例年多数が越冬に訪れるが、林内では、東山作業所横の小川や本沢ゲート横の頭首工、西達布川で見かけたのみである。カルガモは、2007年に樹木園の池でつがいを確認された。カワアイサは、林内ではオンコ沢で1例のみ確認された。

タカ科

トビは、演習林内も含め富良野地方全域で一般的に見られ、樹木園でのみ営巣を確認した。厳冬期にはあまりみかけなくなる。オジロワシは、冬期にエゾシカの越冬地である西達布川や岩魚沢、布部川、樹木園などで見かける。エゾシカが増えた近年の現象と思われる。オオワシは、オジロワシと同様に近年エゾシカ越冬地周辺で目撃されるようになったが、オジロワシより飛来数は少ない。オオタカは、これまでに樹木園（2005年）と74林班（2007年）のカラマツ林内で繁殖が確認された。樹木園の巣を、翌年にノスリが利用した。ツミは、2005年に小黒瀬沢（34林班）とオンコ沢（82林班）で目撃された。ハイタカは、2007年に3林班で確認された。ハイタカと思われる個体は、数例目撃されている。ノスリは、富良野地方ではトビに次いでよく目撃される猛禽で、演習林内の樹木園（2006年）や108林班（2007年）で繁殖が確認された。クマタカは、これまでに布部地区や西達布三の山地区でしばしば目撃されている。

ハヤブサ科

チゴハヤブサを2006年に山部庁舎裏の林で確認した。

ライチョウ科

エゾライチョウは、林内全域で周年見られる。繁殖期には林道上に雛を連れたメス成鳥が目撃される。

シギ科

ヤマシギは、天然林内でしばしば見かけ、巣と思われるものも確認しており、演習林内で繁殖している可能性は高い。オオジシギは、麓郷や平沢地区などの農地や牧草地から飛来する個体の上空通過が確認できる。アオシギは、2006年の冬期に西達布川上流部（94林班）で1例確認された。

ハト科

キジバトは、林内全域で姿や鳴き声がよく確認されている。樹木園で営巣が確認された。アオバトは、林内の広い範囲で鳴き声を聞く。

カッコウ科

ジュウイチは、演習林内での確認は74林班のみである。カッコウは、林内でも鳴き声を聞く。ツツドリは、林内全域でよく確認される。

フクロウ科

コノハズクは、鳴き声が14林班で確認された。オオコノハズクは、2005年3月に山部庁舎の隣にある山部神社の境内の中の日撃例がある。フクロウは、林内の広い範囲で周年確認されている。

ヨタカ科

ヨタカは、2004年に84林班で営巣が確認されたが、姿を見かけることはほとんどない。

アマツバメ科

ハリオアマツバメは、高山帯で上空を飛翔する姿がよく見られる。

カワセミ科

ヤマセミは、西達布川上流部と本沢で冬期に確認された。カワセミは、2006年と2008年に樹木園の池で魚を捕まえている姿が数回確認された。

キツツキ科

ヤマゲラは、林内で確認できるときがあるが、山部庁舎周辺や樹木園、麓郷セミナーハウスで比較的よく見られる。クマゲラは姿を見かけることが多い。繁殖事例が報告されている(7)。アカゲラは、林内や山部庁舎周辺でよく見られる。2004年に林長宿舎前の木製電柱で繁殖した。2008年には樹木園で繁殖が2例確認された。オオアカゲラは、アカゲラと比べると目撃例は少なく、布部や樹木園など数例しかない。コゲラは、低地から高山まで広い範囲でよく見られ、樹洞を掘る姿が確認されている。

ヒバリ科

ヒバリは、演習林周辺の農地や牧草地でよく見かける。樹木園の苗畑でも確認された。イワツバメは、富良野地方では最も見かけるツバメ類といえる。

セキレイ科

キセキレイは、老節布川流域でよく見かける。これまでに林道ゲートの支柱の中で育雛した例が複数見られ、樹木園でも幼鳥が確認された。ハクセキレイは、低地の河畔域や、山部市街地、樹木園などでよく見かける。樹木園の車庫の中で繁殖したことがある。セグロセキレイは、2006年の冬に西達布川で確認されたことがある。ビンズイは、高山の森林で囀る姿が確認されることが多く、樹木園でも確認された。

ヒヨドリ科

ヒヨドリは、週年、林内各所でよく見られる。

モズ科

モズは、山部市街地や樹木園などでよく見られる。樹木園では雛が確認された。

レンジャク科

キレンジャクは、冬期にはほぼ例年、群れをなして樹木園のカンボクの実を食べに来る。林内でも群れになってヤドリギの実をついばむ姿が確認された。ヒレンジャクは、冬期に山部市街地周辺で確認される。キレンジャクの群れに混ざることがある。

カワガラス科

カワガラスは、林内各所の河川でよく見かけられる。本沢で雛が確認された。

ミソサザイ科

ミソサザイは、周年、渓流域の森林でよく囀りや姿が確認される。

イワヒバリ科

カヤクグリは、大麓山周辺のハイマツ帯で2004年4月から2008年7月までの期間に数例確認されている。

ツグミ科

コマドリは、比較的高標高（約700m-800m）の森林内や渓流域などで囀りがよく聞かれる。ノゴマは、2007年に麓郷のセミナーハウスと大麓山山頂付近で確認された。コルリは、低地から高山まで広い範囲の地表近くで姿や囀りがよく確認される。ルリビタキは、高山の森林帯やハイマツ帯などで囀りがよく聞かれる。ノビタキは、演習林周辺の牧草地や農地でよく見られる。トラツグミは、囀りが林内各所で確認されており、樹木園や神社山、34林班で雛が確認された。マミジロは、12林班や93林班など高山の森林内で数例確認された。クロツグミは、樹木園や神社山などの低地から低標高の森林で見かける。アカハラは、低地から高山の森林でよく姿や囀りが確認される。マミチャジナイは、樹木園でしか確認されていない。アカハラと似ており、両種の個体数比率は不明である。ツグミは、秋から初冬にかけて林内で見かけることがあり、2007年は各所で100羽ほどの群れが確認された。

ウグイス科

ヤブサメは、低標高（約200m-500m）の広い範囲の林内のササ地で確認されている。ウグイスは、低地から高山帯まで生息しており、99林班のトドマツ造林地で巣と卵が確認された。エゾムシクイは、低地から高山の森林内で確認される。センダイムシクイは、高山帯を除く林内の広い範囲で確認されている。キクイタダキは、夏期には高山の森林で見られ、冬期には低標高地で確認される。

ヒタキ科

キビタキは、林内の広い範囲で生息しており、樹木園や27林班で幼鳥が確認された。オオルリは、林内各所の河川流域や神社山でよく見られる。巣と卵の確認記録もある。サメビタキは、高山の森林内で数回目撃例があるだけである。コサメビタキは、低山の森林やカラマツ造林地、樹木園などで確認された。樹木園、神社山で営巣が確認された。

エナガ科

エナガは、群れで生活しているのを林内各所で見られる。前山林道で幼鳥を含む群れが確認された。

シジュウカラ科

ハシブトガラ、コガラは、識別が困難である。どちらの種であるかは不明だが、ハイマツ帯を除く広い森林地帯で周年見かける。地域的、季節的な個体数比率は把握できていない。ヒガラは、広く森林地帯で周年みかけ、特に高山の森林内で見かけることが多い。ヤマガラは、冬期に低山の森林で確認され、夏期にはあまりみかけなくなる。シジュウカラは、低標高域の森林で周年見

かける。

ゴジュウカラ科

ゴジュウカラは、低地からハイマツ帯までの広い地域で周年見かける。山部庁舎前の庭にかけた巣箱で育雛が確認された。

キバシリ科

キバシリは、低地から高山の森林で周年確認される。

メジロ科

メジロは、樹木園や神社山などで確認されている。

ホオジロ科

ホオジロは、演習林周辺の農地や牧草地、樹木園の苗畑でよくみかけ、幼鳥も確認された。ミヤマホオジロは、冬期に山部庁舎周辺や樹木園で確認されたが、林内で確認されたことはない。アオジは、林内の高山帯を除く広い範囲で夏期に見られる。樹木園で幼鳥が確認された。クロジは、樹木園でしばしば確認されるが、それ以外では目にする機会は少ない。

アトリ科

アトリは、冬期に山部庁舎や樹木園で100羽ほどの群れを見かけることがあるが、林内で確認されたことはない。カワラヒワは、山部庁舎周辺や樹木園、低山帯の森林でよく見かける。山部庁舎周辺の森林で営巣が確認された。マヒワも、冬期に山部庁舎や樹木園、東山作業所周辺で100羽ほどの群れを見かける。ギンザンマシコは、夏期には大麓山周辺のハイマツ帯でしばしば確認される。冬期では山部市街地などの低地で見かけることがある。イスカは、夏期には12林班や91林班などの高地の森林で確認されることが多いが、冬期には29林班、春先には樹木園でも見られた。ベニマシコは、2008年に26林班林縁部の麓郷街道沿いで1例確認された。ウソは、夏期に比較的高標高の森林で確認される。冬期には低山の森林や山部庁舎周辺でも見られる。イカルは、低標高の森林や、樹木園でよく見かける。シメは、低山の森林で確認されることが多い。冬期には平沢の農地に大群でいるのが確認された。

ハタオリドリ科

ニュウナイスズメは、林内で確認されることは稀だが、東郷ダム管理棟のイワツバメの巣を利用し繁殖しているのが確認された。スズメは、山部庁舎周辺で見かけることがある。

ムクドリ科

コムクドリは、山部庁舎裏の林でよく見かける。庁舎前庭にかけた巣箱で育雛が確認された。ムクドリは、林内で見かけることはなく、山部市街地や樹木園で見かけることがほとんどである。樹木園の作事場の屋根裏で繁殖したことがある。

カラス科

カケスは、高山帯を除く広い範囲で周年確認され、個体数も多い。ホシガラスは、大麓山周辺

のハイマツ帯で見かける。ハシボソガラス、ハシブトガラスともに林内全域で確認される。ハシボソガラスは、山部庁舎裏の林で営巣し、人に対して威嚇行動をとった。

秩父演習林

タカ科

トビは、入川やトウバク沢など沢沿いで見られる。クマタカは、入川林道上で上空を旋回しているほか、林縁にとまっていたり、樹冠の中を飛翔する姿を確認できるときがある。

キジ科

ヤマドリは、入川林道上で親子連れを確認できるほか、山地帯域の森林内で、広く確認できる。

ハト科

キジバトは、林内の他、市街地にある苗畑付近でも確認できる。アオバトは、目撃例は少ないが、広範囲で鳴き声が聞かれる。

カッコウ科

ジュウイチ、ツツドリ、ホトトギスともに、目撃例は少ないが、広範囲で鳴き声が聞かれる。ホトトギスをもっとも遅く飛来し、カッコウは、90年代に影森苗畑で鳴き声を確認しているが、現在は確認できていない。

ヨタカ科

ヨタカは、目撃例は少ないが、伐採跡地や登山道など広範囲で卵や雛が確認されている。

カワセミ科

アカショウビンは、2008年に20林班でオス2個体の囀り合いを確認している。

キツツキ科

アオゲラは、目撃例は少なく、キツツキ類の中では、個体数は多くないと思われる。2008年は入川林道で頻繁にみかけた。突出峠、大面積長期生態系プロット、樹木園、影森苗畑でも確認している。アカゲラは、広範囲で見られる。オオアカゲラは、目撃例は少ないが、入川林道でも確認でき、大面積長期生態系プロットでは、アカゲラより頻繁に見られる。コゲラは、林内の他、市街地の苗畑や秩父事務所でも確認できる。

ツバメ科

ツバメは、市街地にある影森苗畑周辺で見られる。

セキレイ科

キセキレイは、入川林道下部やワサビ沢、トウバク沢など、溪流沿いであれば広範囲で見られる。ハクセキレイは、市街地にある苗畑周辺で見られる。セグロセキレイは、目撃例は少なく、溪流沿いで稀に見られる。ビンズイは、繁殖期は亜高山帯で、冬期には市街地にある苗畑周辺でも見られる。

ヒヨドリ科

ヒヨドリは、市街地にある苗畑周辺で見られる。林内では、矢竹沢の造林地などでも確認できる時がある。

カワガラス科

カワガラスは、溪流沿いであれば、広範囲で見られる。

ミソサザイ科

ミソサザイは、溪流沿いであれば、広範囲で見られる。

イワヒバリ科

カヤクグリは、目撃例は少ない。2005年1月に入川林道下部で確認している。同年8月には、標高約2,000mの亜高山帯域で囀りを確認している。

ツグミ科

コマドリは、目撃例は少ないが、標高1,600m以上の亜高山帯域で囀りを確認できる。突出峠での標識調査でも確認している。渡来後、1ヶ月程度は、標高1,100mから1,400mの地域に滞在している(15)。コルリは、林内の広範囲で囀りを確認できるが、姿を見ることはほとんどない。ルリビタキは、繁殖期は亜高山帯で、冬期は山地帯で見られる。ジョウビタキは、市街地の他、林道周辺など開けた場所で見られる。トラツグミは、目撃例は少ないが、囀りは確認されている。マミジロは、2007年5月17日に入川林道上で1例確認した。クロツグミは、目撃例は少ないが、広範囲で囀りが確認でき、繁殖も確認できた。2008年は確認できていない。アカハラは、入川沿いの天然林で囀りをよく確認でき、姿を見ることも少なくない。ツグミは、市街地にある苗畑周辺で確認されるほか、林内でも群れを確認できる。

ウグイス科

ヤブサメは、林内の広範囲で囀りを確認できるが姿を見ることは少ない。ウグイスは、林内の広範囲で囀り、姿を確認できる。4月から5月にかけて分布の上限が上昇していき、5月中旬には、標高1,600m地点で確認され、7月上旬には、標高2,000mまでのほぼ全域で確認できる(15)。メボソムシクイは、コマドリ、センダイムシクイ、コルリ、ヤブサメなどの夏鳥よりは渡来は遅く、渡来後、急激に分布上昇域を上げ、6月中旬には、標高1,600m以下では確認できなくなる(15)。標高1,600m以上の亜高山帯域で囀りを多く確認できる。エゾムシクイは、林内の広範囲で囀りを確認できる。センダイムシクイは、山地帯域の広範囲で囀りを確認できる。キクイタダキは、目撃例は少ないが、冬期はヒガラなどと混群を形成しており入川林道などでも確認できることがある。

ヒタキ科

キビタキは、広範囲で囀りを確認できるが、オオルリに比べ観察例は少ない。オオルリは、溪流沿いであれば広範囲で囀り、姿を確認できる。4月中旬には林内に飛来している。

エナガ科

エナガは、林内の広範囲で見られる。

シジュウカラ科

コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ 4種を、林内の広範囲で確認できる。ブナ林で密度が高いヒガラが、4種の中では個体数が多いと推定される。

ゴジュウカラ科

ゴジュウカラは、広範囲で見られ、繁殖も確認している。

キバシリ科

キバシリは、突出峠で確認できるが、観察例は少ない。

メジロ科

メジロは、目撃例は少ないが、林内の他、市街地の影森苗畑でも確認できる。

ホオジロ科

ホオジロは、林道沿いや伐採跡地など広範囲で見られる。カシラダカは、冬期に矢竹沢で確認しているが、目撃例は少ない。アオジは、冬期に市街地にある苗畑付近で見られる。少ないが林内での目撃例もある。クロジは、繁殖期間に亜高山域で囀りを確認できる。突出峠の標識調査でも確認している。

アトリ科

アトリは、目撃例は少ないが、冬期間は100羽ほどの群れを確認できる。カワラヒワは、市街地にある苗畑付近で見られる。ウソは、亜高山帯で見られるが、目撃記録は多くない。矢竹沢付近で囀りを確認できることもある。イカルは、目撃例は少ないが、冬期間は20羽程度の群れを確認できるときがある。

ハタオリドリ科

スズメは、市街地にある苗畑周辺で見られる。

ムクドリ科

ムクドリは、市街地にある苗畑周辺で見られる。

カラス科

カケスは、林内の広範囲で見られる。オナガは、市街地にある影森苗畑周辺で見られる。ハシブトガラスは、広範囲で確認できるが、ハシボソガラスの林内での目撃例は稀である。

外来種キジ科

コジュケイは、栃本作業所周辺で見られるが、確認例は少ない。

外来種チメドリ科

ガビチョウは、市街地にある影森苗畑周辺および黒石実験地周辺で見られる。2005年に29林班内での標識調査で捕獲された記録がある。ソウシチョウは、約15年前から確認されており、現在

は、林内の広範囲で確認されるようになっている。

愛知演習林

ウ科

カワウは、赤津の白坂量水堰で2例確認している。犬山、新居においては、上空を頻繁に通過する。

サギ科

コサギは、犬山、新居において、上空を通過する姿を確認できる。アオサギは、赤津の白坂量水堰で1例確認され、犬山では、樹上にとまっている姿を確認できる。

カモ科

カルガモは、赤津白坂量水堰、東山量水堰、穴の宮量水堰、犬山24林班の池で確認している。

タカ科

ハチクマは、2004年以前に赤津で繁殖を確認しており、犬山でも確認している。トビは、赤津では最近目撃例が少なくなっている。犬山では、特に秋から冬にかけて19・21林班で群れが見られる。新居ではここ数年マツの樹上で営巣している。オオタカは、赤津で2004年以前に繁殖を確認し、最近では64・65林班界の尾根や東山林道で確認している。犬山においても確認している。ツミは、2004年以前に赤津と犬山で確認している。ハイタカは、2006年7月に犬山の3林班内で営巣を確認した。ノスリは、赤津全域で目撃回数が増えており、犬山、新居でも確認できる。サシバは、2004年以前に赤津で繁殖を確認しているが、近年は観察例が少ない。犬山でも確認されている。

ハヤブサ科

ハヤブサは、2004年以前に犬山で確認しているだけで、観察例は極めて少ない。

キジ科

ヤマドリ、キジは、赤津、犬山で繁殖している。新居でも確認しているが繁殖は確認できていない。

シギ科

ヤマシギは、赤津、新居で確認しているが、観察例は少ない。

ハト科

キジバトは、赤津、犬山、新居で繁殖している。演習林全域で見られる。アオバトは、赤津では2004年以前に53林班の東山林道ゲート付近と2006年に67林班の天然林で確認していて、犬山でも鳴き声で確認している。

カッコウ科

ジュウイチは、赤津で2004年以前に確認しているが、観察例はカッコウの仲間でも最少ない。

カッコウは、赤津では苗畑で、犬山では2007年5月に24林班の林道で鳴き声を確認しているが、確認期間が短いことから渡りの途中の個体と思われる。ツツドリ、ホトトギスは、ともに赤津、犬山で鳴き声を確認できる。

フクロウ科

コノハズクは、2004年以前に犬山で1例確認されているだけである。オオコノハズクは、赤津の古いアオゲラの巣穴で姿を確認している。犬山でも稀に確認できる。フクロウは、赤津、犬山で確認している。犬山の26林班では2006年秋に、日中15時に樹上で鳴いていたことがある。

ヨタカ科

ヨタカは、2007年夏、赤津71林班ヒノキ幼齢林の下刈時に卵と親鳥を確認した他、夏になると、赤津宿泊施設前の街路灯に採食のために訪れ、鳴いているのが確認できる。犬山でも繁殖を確認している。

アマツバメ科

アマツバメを2004年以前に赤津、犬山で確認した。

カワセミ科

ヤマセミは、2004年以前に赤津の白坂量水堰で確認している。犬山では上空を通過する個体が確認されている。アカショウビンは、赤津で、稀に鳴き声で確認されたことがある。カワセミは、穴の宮試験地で繁殖を確認し、同試験地内の量水堰内の倒木上で姿が確認されることがある。犬山では演習林近くの河川からの飛来を確認している。

キツツキ科

アオゲラは、赤津、犬山で繁殖している。2007年春に犬山作業所前のエドヒガンの枝に巣穴を掘り営巣したが、巣立ち間近で外敵に雛が襲われた。アカゲラは、赤津、犬山、新居で確認している。最近では、犬山で2005年6月に14林班で確認している。オオアカゲラは、新居で2005年11月にクロマツで採餌する姿を確認している。コゲラは、赤津、犬山、新居で繁殖していて、演習林全域で見られる。

ツバメ科

ツバメは、赤津、犬山、新居で確認されるが、いずれも上空を飛翔しているだけである。コシアカツバメは、2004年以前に犬山で、採餌等で飛来する形で確認されたことがある。イワツバメは、赤津、犬山で確認されていて、犬山では演習林近くの橋げたで毎年営巣している。

セキレイ科

キセキレイは、赤津で繁殖し、白坂量水堰でよく見かける。犬山でも確認できる。ハクセキレイは、赤津、犬山、新居で確認しているが、森林内での確認ではない。セグロセキレイは、赤津、犬山、新居で確認できる。ビンズイは、新居試験地で冬期に確認できる。

サンショウクイ科

サンショウクイは、赤津で鳴きながら飛ぶ姿が見られるが、目撃例は少ない。年によっては、渡来が確認できないこともある。犬山では過去に確認している。

ヒヨドリ科

ヒヨドリは、愛知演習林全域で見られ、個体数も多く、繁殖している。

モズ科

モズは、赤津、犬山で繁殖している。新居でも確認している。

レンジャク科

キレンジャク、ヒレンジャクともに、2004年以前に赤津、犬山で秋の渡り時期に確認されたことがある。

カワガラス科

カワガラスは、赤津の白坂量水堰や演習林内の溪流で見られ、繁殖を確認している。犬山では稀に確認される。

ミソサザイ科

ミソサザイは、赤津の62林班の沢筋で親子連れを確認している。はしかみ林道奥の河原でも確認されたが個体数は少ない。犬山でも確認されている。

イワヒバリ科

カヤクグリは、2007年1月に赤津で確認している。

ツグミ科

ルリビタキ、ジョウビタキは、赤津、犬山で比較的観察例が多い。ルリビタキは、間伐や地拵などの林業作業中、掻き起こされた地表面から出てくる昆虫類などを採食するために、人の近くに寄ってることがある。トラツグミは、赤津で確認でき、犬山では10林班で確認している。五位塚事務所構内でも見られる。マミジロは、2004年以前に赤津で、渡りの途中と思われる個体が1例確認されている。クロツグミは、赤津一帯で囀りが確認される。アカハラは、2004年以前に赤津、犬山で確認されているだけである。シロハラ、ツグミは、赤津、犬山、新居で確認できる。シロハラは、広葉樹の森林内で確認されることが多く、2007年の冬期は、目撃回数が例年より多かった。ツグミは、渡来数に年変動があるように感じられる。

ウグイス科

ヤブサメは、赤津、犬山で繁殖を確認しているが、近年渡来数が減ってきている印象がある。ウグイスは、愛知演習林全域で見られ、赤津、犬山で繁殖し、新居でも確認している。ブッシュを好むことから、幼齢人工林や林道沿いなどでの確認が多い。メボソムシクイは、赤津と2005年5月に新居で確認し、エゾムシクイは、2005年7月に赤津で確認しているが、春の渡り時期の通過個体と思われる。センダイムシクイは、赤津、犬山で繁殖をしている。キクイタダキは、2004

年以前に赤津、犬山で確認されているが、観察例は少ない。

ヒタキ科

キビタキは、赤津で繁殖している。2007年5月には北谷小流域で親が樹上で幼鳥に給餌している姿を撮影した。犬山でも確認でき、比較的観察例は多い。オオルリは、赤津、犬山で繁殖し、育雛巣の確認記録も数例ある。コサメビタキは、2004年以前に赤津で1例繁殖を確認しているだけである。

カササギヒタキ科

サンコウチョウは、赤津で繁殖していて、62・64・71林班で見られる機会が多い。犬山でも稀に確認できる。

エナガ科

エナガは個体数が多く、愛知演習林全域で見られる。赤津、犬山、新居で繁殖している。

シジュウカラ科

コガラは、2004年以前に赤津、犬山で確認されているが、観察例は少ない。ヒガラは、赤津で2006年5月に57林班でスズメバチの古巣に2羽で出入りしていたほか、巣箱での繁殖を確認し、犬山、新居でも確認している。ヤマガラ、シジュウカラは、赤津、犬山、新居で繁殖し、愛知演習林全域で見られる。巣箱設置による調査を長期間継続している。

メジロ科

メジロは、赤津、犬山で繁殖し、新居で確認している。個体数も多く、愛知演習林全域で見られる。

ホオジロ科

ホオジロは、赤津、犬山で繁殖し、新居で繁殖している可能性がある。個体数も多く、愛知演習林全域で見られる。幼齢人工林や林道沿いなどでの観察例が多い。ホオアカは、2004年以前に赤津、犬山で確認されたが、機会は少ない。カシラダカは、赤津では稀に確認できる。犬山でも確認でき、新居では冬期に群れでよく見られる。アオジは、赤津、犬山、新居で見られ、五位塚事務所構内でも見られる。クロジは、2004年以前に赤津、犬山で確認されているが、観察例は少ない。

アトリ科

アトリは、2004年以前に赤津、犬山で確認されているが、観察例は少ない。カワラヒワは、赤津、犬山で繁殖を確認し、新居でも繁殖の可能性がある。マヒワは、赤津、犬山で春の渡り時期に観察例が多い。ベニマシコは、赤津では2007年1月に東山林道で、犬山では2007年3月に25林班で確認している。ウソは、赤津、犬山に冬期に群れで見られる。イカルは、赤津、犬山で冬期に群れで見られるほか、繁殖期にも確認できる。シメは、冬期に赤津で稀に確認でき、犬山の作業所前でも見られる。

ハタオリドリ科

スズメは、赤津、犬山、新居で確認できるが、人家周辺からの飛来がほとんどである。

ムクドリ科

ムクドリは、新居で確認できる。

カラス科

カケスは、赤津、犬山で冬期の個体数が多いが、年によって変動が大きい。ハシボソガラスは、赤津、犬山、新居で確認し、新居では繁殖している。ハシブトガラスは、赤津で繁殖を確認し、犬山でも確認できる。新居を含め愛知演習林全域で見られる。

外来種キジ科

コジュケイは、赤津、犬山、新居で繁殖し、赤津宿泊施設の駐車場では親子連れがよく見られる。

富士演習林

カモ科

文献では、マガモなど多くのカモ類が確認されているが、冬期の観察が実施できていないことから、情報が不十分である。コブハクチョウを2005年6月に、山中湖湖面で確認したが、飼育個体と思われる。

タカ科

トビは、林内で頻繁に見られる。2005、2008年に営巣を確認した。ハイタカは、2006年7月に3林班内で営巣を確認した。

キジ科

キジは、林内で確認される。

チドリ科

コチドリは、2005年6月、湖畔で2羽を確認した。1羽は抱卵姿勢であったが卵は確認できなかった。

ハト科

キジバトは、林内で確認される。

カッコウ科

カッコウ、ホトトギスともに、目撃例は少ないが、頻繁に鳴き声が聞かれる。

キツキ科

アオゲラは、林内で確認されるが、アカゲラより観察例は少ない。アカゲラ、コゲラは、繁殖期のラインセンサス中、ほぼ毎回確認されている。繁殖も確認している。

ツバメ科

ツバメは、山中寮周辺で確認される。林内でも上空を飛翔している時がある。

セキレイ科

キセキレイは、夏期に、山中寮周辺で頻繁に確認できる。セグロセキレイは、湖畔、グランドなどで確認された。

ヒヨドリ科

ヒヨドリは、林内で頻繁に確認される。

ツグミ科

クロツグミは、目撃例は少ないが、頻繁に囀りが聞かれる。アカハラは、繁殖期のラインセンサスで数回鳴き声を確認した。文献との比較で、個体数は激減していると思われる。

ウグイス科

ウグイスは、下層でササが優占している箇所で囀りを確認できる。メボソムシクイは、2006年6月に3林班内で囀りを確認した。センダイムシクイは、繁殖期のラインセンサスで囀りを数回確認しているが、そのまま留まるのかは不明である。

ヒタキ科

キビタキは、林内で囀り、姿ともに頻繁に確認できるが、繁殖は確認できていない。富士演習林では、優占種である。コサメビタキは、2006年6月に1林班内で確認した。

カササギヒタキ科

サンコウチョウの囀りを2005年6月に3林班で確認した。

エナガ科

エナガは、林内で確認されることがある。目撃例は少ない。

シジュウカラ科

ヒガラ、シジュウカラは、林内で頻繁に見られ、囀りも頻繁に確認できる。シジュウカラは、繁殖を確認している。ヤマガラは、林内で確認できたが、他のカラ類に比べ目撃例は少ない。

メジロ科

メジロは、林内で頻繁に見られる。

ホオジロ科

ホオジロは、林内で頻繁に囀り、姿を確認できる。アオジは、繁殖期のラインセンサス中に数回確認されている。近年は、アオジよりノジコの個体数が多いとの情報がある。

アトリ科

カワラヒワは、林内で頻繁に囀り、姿を確認できる。イカルは、2005年6月、ラインセンサス中に確認した。

ハタオリドリ科

スズメは、山中寮周辺で確認できる。

ムクドリ科

コムドリは、林内で確認されるが、文献と比較すると個体数は減少しているようである。キツキ類の古穴で繁殖を確認した。2008年は確認できていない。ムクドリは、湖畔、グラウンドで確認した。

カラス科

カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラスともに、林内で確認される。

外来種キジ科

コジュケイは、繁殖期のラインセンサス中に鳴き声を確認した。

外来種チメドリ科

2006年の調査で初めてガビチョウが確認された。

樹芸研究所

サギ科

ミゾゴイは、2004年9月、加納事務所構内で右足を負傷した若鳥を保護した。ダイサギ、コサギ、アオサギは、加納事務所周辺の青野川、二条川等で確認することができる。チュウサギは、2003年2月二条川で確認した。アオサギは、加納事務所の防火用水池でも確認できるときがある。

カモ科

オシドリは、2005年に奥山沢で番を確認した。マガモ、カルガモは、青野川、二条川流域でよく見かける。カルガモは、加納事務所の防火用水池でもよく見かける。

タカ科

ミサゴは、青野川中流から下流にかけて川上を飛翔する姿をよく見かける。トビ、ノスリは、南伊豆地方全域で見られ、青野研究林内でも多く確認される。オオタカは、1・2・5林班で飛翔する姿を確認している。ハイタカは、タカ科ではトビ、ノスリにつき観察例が多い。クマタカは、2008年1月青野研究林で確認した。同年5月までクスノキ林（3林班）上空を飛翔する姿がよく見られ、羽先の欠けから個体識別ができた（1羽のみ）。

キジ科

ヤマドリは、林内全域で周年見られる。4林班で繁殖を確認した。

ハト科

キジバトは、林内全域で周年見られる。アオバトは、鳴き声は聞くが目撃例は無い。鳴き声は主に3林班や6林班の境界付近から聞こえ、里に近い作業所周辺では確認できていない。

カッコウ科

ツツドリは、2005年に鳴き声を確認したが、目撃例はない。ホトトギスは、林内全域で鳴き声を聞くことができる。

フクロウ科

アオバズクは、加納事務所構内で日没時に姿が何度か目撃されている。フクロウは、鳴き声はよく聞かれるが、目撃例は少ない。下賀茂寮前で日中に現れたことがある。

ヨタカ科

ヨタカは、2002年5月、山下林道で確認した。

カワセミ科

ヤマセミは、2006年、青野川中流で確認された。カワセミは、林内及び周辺河川で周年見られる。加納事務所構内の防火用水池でも水中ダイビングを見ることがある。

キツツキ科

アオゲラ、コゲラは、林内全域でよく確認される。アカゲラは、2007年3月、1林班で観察例があるが、アオゲラに比べて目撃例は少ない。

ツバメ科

ツバメは、加納事務所周辺で見られる。イワツバメは、4林班の稜線上を飛ぶ複数羽を確認している。

セキレイ科

キセキレイは、林内の河川でよく見られる。セキレイ類の中でもっとも多く見ることができる。ハクセキレイ、セグロセキレイは、林内の河川でも見られるが、中、下流域でもっともよく見られる。ピンズイは、5林班で鳴き声が確認されている。タヒバリは、加納事務所前の河川沿いや農耕地で見られる。

ヒヨドリ科

ヒヨドリは、林内全域で周年よく見られる。

モズ科

モズは、青野研究林の林縁部や作業所周辺、加納事務所構内などでよく見られる。

カワガラス科

カワガラスは、青野研究林の山下沢で目撃例が多い。

ミソサザイ科

ミソサザイは、林内の沢筋でよく見られる。

イワヒバリ科

カヤクグリは、2002年2月、岩樟園林道で確認している。

ツグミ科

ルリビタキは、冬期、林内全域で確認できる。ジョウビタキ、シロハラは、冬期、青野研究林内や加納事務所構内でよく見られる。ジョウビタキは、林縁部での目撃例が多い。イソヒヨドリは、加納事務所構内でよく見られるが、林内での記録はない。繁殖も確認しており、5～6月頃に巣立ち直後の雛が構内を飛び回る姿がよく見られる。トラツグミは、青野研究林内各所で囀りを確認している。クロツグミは、林内全域で囀りの確認や目撃例がある。アカハラは、2003年2月、クス林で確認した。ツグミは、冬期に加納事務所構内でよく見られる。

ウグイス科

ヤブサメは、青野研究林内の沢沿いで囀りを聞くことができる。ウグイスは、周年よく見られ、5林班で営巣を確認した。

ヒタキ科

オオルリは、林内全域で囀りを聞くことができ、巣も確認できる。

カササギヒタキ科

サンコウチョウは、主に2林班、5林班の薄暗い森林で囀りを聞くことができる。

エナガ科

エナガは、林内全域でよく見られる。冬期にはカラ類等との混群を形成している。

シジュウカラ科

ヤマガラ、シジュウカラは、林内全域、加納事務所構内でよく見られる。2004年から架設巣箱による繁殖調査を行っている。

メジロ科

メジロは、周年よく見られる。6林班で巣を確認した。

ホオジロ科

ホオジロは、青野研究林の林縁付近で周年よく見られる。カシラダカは、加納事務所構内で目撃例がある。アオジ、クロジは、冬期に青野研究林や加納事務所周辺で見られる。

アトリ科

カワラヒワ、マヒワは、加納事務所前の河川沿いや農耕地で見られる。ウソは、青野研究林で数回目撃されている。イカルは、青野研究林の広葉樹二次林でよく見られる。

ハタオリドリ科

スズメは、加納事務所構内で見られる。

ムクドリ科

ムクドリは、加納事務所構内でよく見られる。青野研究林で確認されたことはない。

カラス科

カケスは、林内全域でよく見られる。冬から春、4～5羽ほどの群れをよく見かける。ハシボ

ソガラス、ハシブトガラスは、林内全域で確認される。

外来種キジ科

コジュケイは、林内全域で囀りを聞くことができる。苗畑や林道で確認できるときがある。

参考文献

1. 荒木田善隆 (1993) 巣箱架設によるシジュウカラの繁殖生態. 平成5年度技術官等試験研究・研修報告東京大学農学部演習林: 27-35. 東京大学農学部附属演習林.
2. 荒木田善隆 (1995) ヤマガラの巣箱設置による繁殖個体数増加と高密度下における繁殖生態. 日本鳥学会誌. 44 (1): 37-65.
3. 荒木田善隆 (2006) 児童期における自然体験学習は何をもたらすか-愛知県犬山市の小学校のアンケート結果から-中部森林研究55: 231-234.
4. 荒木田善隆・小島宏 (1988) 巣箱架設による野鳥の誘致効果について. 日林中支論36: 221-222.
5. 荒木田善隆・小島宏 (1991) 愛知演習林の鳥類. 平成2年度試験研究会議報告: 99-107. 東京大学農学部附属演習林.
6. 有澤浩 (1988) クマゲラ営巣木周辺における繁殖期の鳥類相. 日林北支論37: 113-115.
7. 有澤浩 (1991) クマゲラの営巣密度及び営巣木. 東大演報84: 21-37
8. 有澤浩・芝野伸策 (1983) 自然公園総合調査 (富良野芦別道立自然公園) 報告書, 芦別・夕張山系の鳥類: 144-155.
9. 千葉県野鳥の会 (2005) 鳥獣保護区等内野生鳥獣生息環境調査報告 (平成17年度)
10. 千鳥茂・齋藤俊浩・才木道雄・高德佳絵・荒木田善隆 (2005) 富士演習林の鳥類相 (2005年繁殖期). 平成17年度技術職員等試験研究・研修会議報告17-24. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
11. 千嶋武・荒木田善隆 (2007) 田無試験地の繁殖期の鳥類相-20年前とどう変わったか-. 平成19年度技術職員等試験研究・研修会議報告33-40. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
12. 石田健 (1987) 山中湖の東京大学富士演習林周辺の鳥類群集 I. 概説. Strix6: 66-79.
13. 石田健 (1988) 東京大学農学部附属演習林田無試験地における主要な鳥類の生息状況-鳥状に隔離された緑地の鳥類相について-. 東大演報80: 193-201.
14. 石田健 (1997) 鳥類群集と森林の物理的構造. 大面積プロットによる秩父地方山地帯天然林生態系の解明 (研究代表者梶幹男)
15. 宮下直・大村和也 (1986) 秩父山地の春期における鳥類数種の垂直分布. 38回日林関東支論 193-194.

16. 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・辻良子・荒木田善隆（2002）樹芸研究所青野研究林における林相別鳥類相（繁殖期）. 平成14年度技術職員等試験研究・研修会議報告65-69. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
17. 村瀬一隆・才木道雄・荒木田善隆（2004）巣箱設置によるヤマガラとシジュウカラの繁殖生態（I）－設置初年の利用状況－. 平成16年度技術職員等試験研究・研修会議報告65-69. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
18. 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・辻良子・鴨田重裕・荒木田善隆（2007）南伊豆地方におけるシジュウカラ科の巣箱利用. 中部森林研究55：47-48.
19. 村瀬一隆・渡邊良広・辻和明・遠藤いず貴（2005）樹芸研究所青野研究林における林相別鳥類相（繁殖期）II. 平成17年度技術職員等試験研究・研修会議報告9-12. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
20. 日本鳥類目録編集委員会（2000）日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会.
21. 小川瞳・松井理生・木村徳志（2005）北海道演習林の鳥類相. 平成17年度技術職員等試験研究・研修会議報告17-24. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
22. 才木道雄（2006）千葉県清澄山系におけるサンコウチョウの営巣環境. 日本鳥学会誌55（1）：18-23.
23. 才木道雄（2007）オオルリの繁殖生態記録. 平成19年度技術職員等試験研究・研修会議報告29-32. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
24. 才木道雄・齋藤俊浩・五十嵐勇治・芝野伸策・大村和也（2005）秩父演習林における繁殖期の鳥類群集. 平成17年度技術職員等試験研究・研修会議報告13-16. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
25. 柴田栄（1981）秩父演習林およびその周辺における林層と鳥類群集. 東京大学農学部林学科森林動物学研究室卒業論文.
26. 高德佳絵・荒木田善隆（2000）森林施業が鳥類相に及ぼす影響（II）－モザイク状皆伐更新地の17年後－. 中部森林研究48：141-142.
27. 高德佳絵・荒木田善隆（2005）愛知演習林の林相別鳥類相と鳥類目録. 平成17年度技術職員等試験研究・研修会議報告1-8. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター.
28. 高德佳絵・荒木田善隆（2006）尾張地方における森林タイプ別鳥類相の比較. 中部森林研究53：211-214.
29. 東京大学農学部附属演習林（1989）秩父演習林自然環境調査報告書（昭和63年度）. 31-40.

表-1 各演習林の確認種における季節性、繁殖状況

和名	学名	千葉	北海道	秩父	愛知	富士	樹芸	田無	文献
アビ目 GAVIIFORMES									
アビ科 GAVIIDAE									
1	アビ <i>Gavia stellata</i>					a			12.
カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES									
カイツブリ科 PODICIPEDIDAE									
2	ハジロカイツブリ <i>Podiceps nigricollis</i>					w			12.
3	アカエリカイツブリ <i>P. grisegena</i>					w			12.
ミズナギドリ目 PROCELLARIIFORMES									
ウミツバメ科 HYDROBATIDAE									
4	ハイイロウミツバメ <i>Oceanodroma furcata</i>	p							
5	クロコシジロウミツバメ <i>O. castro</i>					a			12.
ペリカン目 PELECANIFORMES									
ウ科 PHALACROCORACIDAE									
6	カワウ <i>Phalacrocorax carbo</i>				R3				
コウノトリ目 CICONIIFORMES									
サギ科 ARDEIDAE									
7	ミゾゴイ <i>Gorsachius goisagi</i>	S3					S3		
8	ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>			s3		s2			12.14.
9	ササゴイ <i>Butorides striatus</i>					a			12.
10	ダイサギ <i>Egretta alba</i>						S3		
11	チュウサギ <i>E. intermedia</i>						s3		
12	コサギ <i>E. garzetta</i>	R3			R3	a	R3		12.
13	アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	R3	S3		R3		R3		
カモ目 ANSERIFORMES									
カモ科 ANATIDAE									
14	コブハクチョウ <i>Cygnus olor</i>					*R3			
15	オオハクチョウ <i>C. cygnus</i>					w			12.
16	コハクチョウ <i>C. columbianus</i>		P						
17	オシドリ <i>Aix galericulata</i>	R1	S3				R3		
18	マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>	W	W			w	R3		12.
19	カルガモ <i>A. poecilorhyncha</i>	R3	S3		R3	w	R3	r3	12.13.
20	コガモ <i>A. crecca</i>	W	r3			a			12.
21	ヨシガモ <i>A. falcata</i>					w			12.
22	ヒドリガモ <i>A. penelope</i>					w			12.
23	オナガガモ <i>A. acuta</i>					w			12.
24	ホシハジロ <i>Aythya ferina</i>					w			12.
25	キンクロハジロ <i>A. fuligula</i>	W				w			12.
26	ホオジロガモ <i>Bucephala clangula</i>					w			12.
27	ミコアイサ <i>Mergus albellus</i>					w			12.
28	カワアイサ <i>M. merganser</i>		W			w			12.
タカ目 FALCONIFORMES									
タカ科 ACCIPITRIDAE									
29	ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>	W					R3		
30	ハチクマ <i>Pernis apivorus</i>	S3			s2	a			12.
31	トビ <i>Milvus migrans</i>	R3	R1	R3	R1	R1	R3		
32	オジロワン <i>Haliaeetus albicilla</i>		W						
33	オオワシ <i>H. pelagicus</i>		W						
34	オオタカ <i>Accipiter gentilis</i>		R1		R2	a	R3	R1	12.
35	ツミ <i>A. gularis</i>		S3	s2	r3	s2			12.14.
36	ハイタカ <i>A. nisus</i>		R3		R3	R1	R3		
37	ケアシノスリ <i>Buteo lagopus</i>		W						8.
38	ノスリ <i>B. buteo</i>	W	R1	s3	R3	a	R3		12.25.
39	サシバ <i>Butastur indicus</i>	S3				s2	a		12.
40	クマタカ <i>Spizaetus nipalensis</i>		R3	R3			R3		

アルファベットは季節性を表す。R: 留鳥, S: 夏鳥, W: 冬鳥, P: 放鳥, A: 迷鳥。小文字表記は、2004年4月以前のみの確認。数字は繁殖状況を表す。1 : 2004年4月以降に繁殖確認, 2 : 2004年4月以前に繁殖確認, 3 : 繁殖未確認。

*飼育個体と思われる。

和名	学名	千葉	北海道	秩父	愛知	富士	樹芸	田無	文献
ハヤブサ科 FALCONIDAE									
41	ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>		r3		r3				8.
42	チゴハヤブサ <i>F. subbuteo</i>		R3						
43	チョウゲンボウ <i>F. tinnunculus</i>		R3						
キジ目 GALLIFORMES									
ライチョウ科 TETRAONIDAE									
44	エゾライチョウ <i>Tetrastes bonasia</i>		R1						
キジ科 PHASIANIDAE									
45	ヤマドリ <i>Symaticus soemmerringii</i>	R3		R1	R1	a	R1		12.
46	キジ <i>Phasianus colchicus</i>			r3	R1	R3	R3		25.
ツル目 GRUIFORMES									
クイナ科 RALLIDAE									
47	クイナ <i>Rallus aquaticus</i>		s3						8.
48	ヒクイナ <i>Porzana fusca</i>		s3						8.
49	バン <i>Gallinula chloropus</i>		s3						8.
チドリ目 CHARADRIIFORMES									
チドリ科 CHARADRIIDAE									
50	コチドリ <i>Charadrius dubius</i>		s3			S3			8.
シギ科 SCOLOPACIDAE									
51	イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i>		s3			p			8.12.
52	ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i>		S3		R3	s2			12.
53	オオジシギ <i>Gallinago hardwickii</i>		S3						
54	アオシギ <i>G. solitaria</i>		W						
カモメ科 LARIDAE									
55	ユリカモメ <i>Larus ridibundus</i>					w			12.
56	ウミネコ <i>L. crassirostris</i>					a			12.
57	アジサン <i>Sterna hirundo</i>					a			12.
ハト目 COLUMBIFORMES									
ハト科 COLUMBIDAE									
58	キジバト <i>Streptopelia orientalis</i>	R1	S1	R3	R1	R3	R3	R2	
59	アオバト <i>Sphenurus sieboldii</i>	S3	S3	S3	S3	s2	R3	R3	12.
カッコウ目 CUCULIFORMES									
カッコウ科 CUCULIDAE									
60	ジュウイチ <i>Cuculus fugax</i>	S3	S3	S3	s3	p			12.
61	カッコウ <i>C. canorus</i>	S3	S3		S3	S3			
62	ツツドリ <i>C. saturatus</i>	S3	S3	S3	S3	p	S3		12.
63	ホトトギス <i>C. poliocephalus</i>	S3		S3	S3	S3	S3		
フクロウ目 STRIGIFORMES									
フクロウ科 STRIGIDAE									
64	コノハズク <i>Otus scops</i>		S3	S3	s3				
65	オオコノハズク <i>O. lempiji</i>		R3		R3				
66	アオバズク <i>Ninox scutulata</i>		s3	s3			S3		8.14.
67	フクロウ <i>Strix uralensis</i>	R3	R3	a	R3	s2	R3		12.14.
ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES									
ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE									
68	ヨタカ <i>Caprimulgus indicus</i>		S1	S1	S1	s2	s3		12.
アマツバメ目 APODIFORMES									
アマツバメ科 APODIDAE									
69	ハリオアマツバメ <i>Hirundapus caudacutus</i>		S3	s3					25.
70	アマツバメ <i>Apus pacificus</i>				s3	p			12.
ブッポウソウ目 CORACIIFORMES									
カワセミ科 ALCEDINIDAE									
71	ヤマセミ <i>Ceryle lugubris</i>	R3	R3		r3	p	R3		12.
72	アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i>		s3	S3	s3	a			6.12.
73	カワセミ <i>Alcedo atthis</i>	R1	S3		R2		R3	R3	

アルファベットは季節性を表す。R: 留鳥, S: 夏鳥, W: 冬鳥, P: 放鳥, A: 迷鳥。小文字表記は、2004年4月以前のみの確認。数字は繁殖状況を表す。1: 2004年4月以降に繁殖確認, 2: 2004年4月以前に繁殖確認, 3: 繁殖未確認。

和名	学名	千葉	北海道	秩父	愛知	富士	樹芸	田無	文献	
キツツキ目	PICIFORMES									
キツツキ科	PICIDAE									
74	アオゲラ <i>Picus awokera</i>				R3	R1	R3	R3	r3	13.
75	ヤマゲラ <i>P. canus</i>			R3						
76	クマガゲラ <i>Dryocopus martius</i>			R2						
77	アカゲラ <i>Dendrocopos major</i>			R1	R3	R3	R1	R3		
78	オオアカゲラ <i>D. leucotos</i>			R3	R3	R3	a		12.	
79	コゲラ <i>D. kizuki</i>	R3	R3	R1	R1	R1	R3	R1		
スズメ目	PASSERIFORMES									
ヒバリ科	ALAUDIDAE									
80	ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>			S3				R3		
ツバメ科	HIRUNDINIDAE									
81	ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	S1		S1	S3	S3	S3	S3		
82	コシアカツバメ <i>H. daurica</i>				s3					
83	イワツバメ <i>Delichon urbica</i>		S1	s2	S3	s2	S3		12.14.25.29.	
セキレイ科	MOTACILLIDAE									
84	キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>	R1	S1	S1	R1	R3	R3			
85	ハクセキレイ <i>M. alba</i>	R3	S1	R3	R3	p	R3	R3	12.	
86	セグロセキレイ <i>M. grandis</i>	R3	R3	R3	R3	R3	R3	r3	13.	
87	ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>		S3	R3	W	s2	R3		12.	
88	タヒバリ <i>A. spinoletta</i>					a	W		12.	
サンショウクイ科	CAMPEPHAGIDAE									
89	サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i>			p	S3	s2			12.14.29.	
ヒヨドリ科	PYCNONOTIDAE									
90	ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	R3	R3	R3	R1	R3	R3	R1		
モズ科	LANIIDAE									
91	チゴモズ <i>Lanius tigrinus</i>					a2			12.	
92	モズ <i>L. bucephalus</i>	R3	S1	r3	R1	r2	R3	r1	12.13.14.25.	
93	アカモズ <i>L. cristatus</i>					s2			12.	
レンジャク科	BOMBYCILLIDAE									
94	キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>		W		p	a			12.	
95	ヒレンジャク <i>B. japonica</i>	W	W		p					
カワガラス科	CINCLIDAE									
96	カワガラス <i>Cinclus pallasii</i>		R1	R1	R1		R3			
ミソサザイ科	TROGLODYTIDAE									
97	ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>	R3	R3	R1	R1	a	R3		12.	
イワヒバリ科	PRUNELLIDAE									
98	イワヒバリ <i>Prunella collaris</i>			w					14.	
99	カヤクグリ <i>P. rubida</i>	W	S3	R3	W	a	r3		12.	
ツグミ科	TURDIDAE									
100	コマドリ <i>Erithacus akahige</i>		S3	S3						
101	ノゴマ <i>Luscinia calliope</i>		S3							
102	コルリ <i>L. cyane</i>		S3	S3		P				
103	ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>	W	S3	R1	W	w	W		12.	
104	ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureoreus</i>	W		W	W	w	W		12.	
105	ノビタキ <i>Saxicola torquata</i>		S3							
106	イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>	R3					R1			
107	トラツグミ <i>Zoothera dauma</i>	R3	S1	S3	R3	s2	R3		12.	
108	マミジロ <i>Turdus sibiricus</i>		S3	S3	s3	s2			12.	
109	クロツグミ <i>T. cardis</i>	S3	S3	S1	S3	S3	S3			
110	アカハラ <i>T. chrysolais</i>	W	S3	S3	w	S3	w			
111	シロハラ <i>T. pallidus</i>	W		w	W	a	W		12.14.	
112	マミチャジナイ <i>T. obscurus</i>		S3							
113	ツグミ <i>T. naumanni</i>	W	W	W	W	w	W	W	12.	

アルファベットは季節性を表す。R: 留鳥, S: 夏鳥, W: 冬鳥, P: 放鳥, A: 迷鳥。小文字表記は、2004年4月以前のみの確認。数字は繁殖状況を表す。1: 2004年4月以降に繁殖確認, 2: 2004年4月以前に繁殖確認, 3: 繁殖未確認。

和名	学名	千葉	北海道	秩父	愛知	富士	樹芸	田無	文献
ウグイス科 SYLVIIDAE									
114	ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i>	S3	S3	S1	S1	p	S3		12.
115	ウグイス <i>Cettia diphone</i>	R1	S1	R1	R1	S3	R3	R3	
116	エゾセンニユウ <i>Locustella fasciolata</i>			s3					6.
117	メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>				S3	P	S3	s3	13.
118	エゾムシクイ <i>P. borealoides</i>	S3	S3	S3	P				
119	センダイムシクイ <i>P. coronatus</i>	S3	S3	S3	S1	S3		S3	13.
120	クキイタダキ <i>Regulus regulus</i>			R3	R3	w			
ヒタキ科 MUSCICAPIDAE									
121	キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>	S3	S1	S3	S1	S3		S3	
122	オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>	S1	S1	S1	S1		S1		
123	サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i>			S3	p	p			12.14.25.
124	エゾヒタキ <i>M. griseisticta</i>				p	p			12.14.
125	コサメビタキ <i>M. dauurica</i>			S1	p	s2	S3		14.
カササギヒタキ科 MONARCHIDAE									
126	サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	S1		s3	S1	S3	S1		29.
エナガ科 AEGITHALIDAE									
127	エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	R3	R1	R3	R1	R1	R3	R1	
シジュウカラ科 PARIDAE									
128	ハシブトガラ <i>Parus palustris</i>			R3					
129	コガラ <i>P. montanus</i>			R3	R3	r3	r2		12.
130	ヒガラ <i>P. ater</i>			R3	R1	R1		R3	
131	ヤマガラ <i>P. varius</i>	R1	R3	R3	R1	R3	R1	R3	
132	シジュウカラ <i>P. major</i>	R1	R3	R3	R1	R1	R1	R1	
ゴジュウカラ科 SITTIDAE									
133	ゴジュウカラ <i>Sitta europaea</i>			R1	R1	w			12.
キバシリ科 CERTHIDAE									
134	キバシリ <i>Certhia familiaris</i>			R3	R3				
メジロ科 ZOSTEROPIIDAE									
135	メジロ <i>Zosterops japonicus</i>	R1	S3	R3	R1	R1	R1	R1	
ホオジロ科 EMBERIZIDAE									
136	ホオジロ <i>Emberiza cioides</i>	R1	S1	R1	R1	R3	R3	R2	
137	ホオアカ <i>E. fucata</i>				w				
138	カシラダカ <i>E. rustica</i>	W		W	W	w	W		12.
139	ミヤマホオジロ <i>E. elegans</i>			W		w			12.
140	アオジ <i>E. spodocephala</i>	W	S1	W	W	S3	W	r3	13.
141	クロジ <i>E. variabilis</i>	W	S3	S3	w	a	W		12.
アトリ科 FRINGILLIDAE									
142	アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>	W	W	W	w	w			12.
143	カワラヒワ <i>Carduelis sinica</i>	R3	S1	R3	R1	S3	R3	R3	
144	マヒワ <i>C. spinus</i>	W	R3	w	W	a	W		12.14.25.
145	ハギマシコ <i>Leucosticte arctoa</i>			w					25.
146	オオマシコ <i>Carpodacus roseus</i>				a	a			12.14.25.
147	ギンザンマシコ <i>Pinicola enucleator</i>			R3					
148	イスカ <i>Loxia curvirostra</i>			R3					
149	ベニマシコ <i>Uragus sibiricus</i>			S3	w	W	w		12.25.
150	ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula</i>	W	R3	R3	W	p	W		12.
151	イカル <i>Eophona personata</i>			S3	R3	R3	R3	R3	
152	シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>	W	R3	a	W	w		W	12.14.25.
ハタオリドリ科 PLOCEIDAE									
153	ニュウナイスズメ <i>Passer rutilans</i>			S1					
154	スズメ <i>P. montanus</i>	R3	R3	R1	R3	R3	R1	R3	
ムクドリ科 STURNIDAE									
155	コムクドリ <i>Sturnus philippensis</i>			S1		S1			
156	ムクドリ <i>S. cineraceus</i>	R3	S1	R1	R3	R3	R3	R3	

アルファベットは季節性を表す。R: 留鳥, S: 夏鳥, W: 冬鳥, P: 放鳥, A: 迷鳥。小文字表記は、2004年4月以前のみの確認。数字は繁殖状況を表す。1: 2004年4月以降に繁殖確認, 2: 2004年4月以前に繁殖確認, 3: 繁殖未確認。

和名	学名	千葉	北海道	秩父	愛知	富士	樹芸	田無	文献
カラス科 CORVIDAE									
157	カケス <i>Garrulus glandarius</i>	R3	R3	R3	R1	R3	R3	R3	
158	オナガ <i>Cyanopica cyana</i>	R3		R1		a		R3	12.
159	ホシガラス <i>Nucifraga caryocatactes</i>		R3	a		a			12.14.25.
160	ハシボソガラス <i>Corvus corone</i>	R3	R1	R3	R1	R3	R3		
161	ハシブトガラス <i>C. macrorhynchos</i>	R3	R3	R3	R1	R3	R1	R1	
以下、外来種									
キジ目 GALLIFORMES									
キジ科 PHASIANIDAE									
162	コジュケイ <i>Bambusicola thoracica</i>	R3		R1	R1	R3	R3	r1	13.
ハト目 COLUMBIFORMES									
ハト科 COLUMBIDAE									
163	カワラバト (ドバト) <i>Columba livia</i>							r3	13.
インコ目 PSITTACIFORMES									
インコ科 PSITTACIDAE									
164	ホンセイインコ <i>Psittacula krameri</i>							R3	
スズメ目 PASSERIFORMES									
チメドリ科 TIMALIIDAE									
165	ガビチョウ <i>Garrulax canorus</i>			R3		R3			
166	ソウシチョウ <i>Leiothrix lutea</i>			R1				R3	

アルファベットは季節性を表す。R: 留鳥, S: 夏鳥, W: 冬鳥, P: 放鳥, A: 迷鳥。小文字表記は、2004年4月以前のみの確認。数字は繁殖状況を表す。1: 2004年4月以降に繁殖確認, 2: 2004年4月以前に繁殖確認, 3: 繁殖未確認。